

1.	④	11.	②	21.	①	31.	②	41.	①
2.	②	12.	②	22.	①	32.	④	42.	②
3.	④	13.	④	23.	③	33.	①	43.	④
4.	②	14.	②	24.	①	34.	③	44.	②
5.	④	15.	③	25.	②	35.	③	45.	③
6.	①	16.	②	26.	②	36.	④	46.	③
7.	②	17.	③	27.	③	37.	③	47.	④
8.	④	18.	①	28.	③	38.	①	48.	④
9.	④	19.	④	29.	④	39.	③	49.	③
10.	③	20.	④	30.	②	40.	④	50.	③

1.

解答 ④

【解説】

正解は④の **make one's way** です。この表現は、困難な状況を乗り越えたり、人ごみをかき分けたりしながら、目的地に向かって「進む、たどり着く」という意味で使われます。**He made his way through the dense forest.** (彼は鬱蒼とした森の中を進んでいった) のように、努力や困難のニュアンスを含むことが多いです。① **lose one's way** は「道に迷う」、② **give way** は「道を譲る、屈する」、③ **get in one's way** は「～の邪魔になる」という意味です。

◆補足：**make one's way** は、単に **go** や **move** と言うよりも、目的地に到達するまでのプロセスや努力を強調したいときに使われる表現です。主語に合わせて、**make my way, make her way** のように所有格の部分を変化させます。**The politician is slowly making his way to the top.** (その政治家は、ゆっくりとトップへの道を進んでいる) のように、キャリアの成功への道のりを表すのにも使えます。

2.

解答 ②

【解説】

正解は②の **hand in hand** です。この表現は、文字通り「手を取り合って」という意味の他に、二つの物事が「密接に関連して」同時に起こる様子を表す比喩的な使い方があります。**Poverty and crime often go hand in hand.** (貧困と犯罪は、しばしば密接に関連して発生する) のように用います。① **side by side** は「並んで」、③ **back to back** は「背中合わせで」、④ **face to face** は「面と向かって」という意味です。

◆補足：**hand in hand** の比喩的な用法は、二つの事象が単に同時に存在するだけでなく、片方がもう片方を引き起こしたり、互いに影響し合ったりする強い結びつきを示す際に使われます。**go hand in**

hand（密接に関連して進む）や work hand in hand（協力して働く）といった形で使われることが多いです。

3.

解答 ④

【解説】

正解は④の extend です。extend は、期間、範囲、長さなどを「延ばす、延長する」という意味の動詞です。I would like to extend my stay at this hotel for two more nights.（このホテルでの滞在を、もう2泊延長したいのですが）のように使います。① shorten は「～を短くする」という対義語、② exchange は「～を交換する」、③ expand は「～を拡大する、広げる」という意味です。

◆補足：extend と expand は混同しやすいですが、extend が主に時間や直線的な長さを「延ばす」のに対し、expand は面積や体積、規模などを「拡大・拡張する」という違いがあります。例えば、締め切りを「延長する」のは extend a deadline、ビジネスを「拡大する」のは expand a business となります。名詞形は extension（延長、内線電話）です。

4.

解答 ②

【解説】

正解は②の ever since…です。この表現は、過去のある時点を基準にして、「その時からずっと今まで」と、行為や状態が継続していることを強調します。I've lived in this town ever since I was born.（私は生まれて以来、ずっとこの町に住んでいます）のように、主節では現在完了形が使われることが非常に多いです。① even if…は「たとえ～だとしても」、③ just before…は「～の直前に」、④ long after…は「～のずっと後に」という意味で、時の関係が異なります。

◆補足：ever since…の ever は「ずっと」という強調の働きをしており、単に since と言うよりも、継続している期間の長さをより強く表現します。ever since は接続詞として後ろに「主語＋動詞」を伴うことも、前置詞として名詞を伴うこともできます。例えば、Ever since that day, he has been a different person.（あの日以来ずっと、彼は別人のようだ）のように使います。

5.

解答 ④

【解説】

正解は④「制限、限界」です。limit は、許容される量や範囲の最大値、あるいは能力や可能性の境界、すなわち「制限、限界」を意味します。There is a time limit of 30 minutes for this test.（このテストには30分の時間制限がある）のように使います。①「目的」は purpose、②「自由」は freedom、③「可能性」は possibility が対応します。

◆補足：limit は、動詞として「～を制限する」という意味でも使われます。We must limit our spending. (私たちは支出を制限しなければならない)。形容詞形は limited で、「限られた」という意味です。a limited edition (限定版) のように使われます。speed limit (制限速度) や age limit (年齢制限) など、他の名詞と結びついて日常生活でよく目にする単語です。

6.

解答 ①

【解説】

正解は①「広告」です。advertisement は、商品、サービス、イベントなどを宣伝・告知するための「広告」を指します。新聞や雑誌、テレビ、ウェブサイトなどで見られるものです。I saw an advertisement for a new smartphone in the newspaper. (私は新聞で新しいスマートフォンの広告を見た) のように使います。②「記事」は article、③「説明」は explanation、④「発明」は invention が対応する単語です。

◆補足：advertisement は、日常会話ではしばしば ad や advert (特にイギリス英語) と短縮されます。動詞形は advertise で、「～を広告する、宣伝する」という意味です。The company plans to advertise its new product on TV. (その会社は新製品をテレビで宣伝する計画だ)。名詞と動詞をセットで覚えておくと語彙力が強化されます。

7.

解答 ②

【解説】

正解は②の no wonder…です。この表現は、何かに対する理由が明らかになり、「～なのは驚くにあたらない、どうりで～なわけだ、～なのは当然だ」と納得した気持ちを表す際に使われます。He didn't sleep at all last night. No wonder he looks so tired. (彼は昨夜一睡もしなかった。彼がそんなに疲れて見えるのも当然だ) のように用います。① no longer…は「もはや～ない」、③ no way…は「とんでもない」、④ no matter…は「たとえ～でも」という意味で、文脈に合いません。

◆補足：no wonder…の後には、通常「主語＋動詞」が続きます。It is no wonder that…という形で使われることもありますが、口語では It is が省略されて No wonder…で文を始めるのが一般的です。wonder は「不思議に思うこと」という意味の名詞なので、no wonder は「不思議なことは何もない」と直訳でき、そこから「当然だ」という意味になることが理解できます。

8.

解答 ④

【解説】

正解は④「技能」です。skill は、訓練や練習によって習得される特定の能力、すなわち「技能、技術、腕前」を指します。Cooking is a useful skill for everyone to learn. (料理は、誰もが学ぶべき有用な技能だ) のように使います。①「才能」は talent、②「経験」は experience、③「知識」は knowledge が対応します。これらは能力に関連する言葉ですが、意味合いが異なります。

◆補足：skill と talent の区別は重要です。skill が後天的な練習によって身につく「技術」であるのに対し、talent は生まれつき持っている「才能」を指します。また、knowledge (知識) が「知っていること」であるのに対し、skill (技能) は「できること」であるという違いがあります。形容詞形は skillful (熟練した、上手な) です。

9.

解答 ④

【解説】

正解は④の imply です。imply は、言葉で直接的に言うのではなく、態度や言葉の節々で「～をほのめかす、暗に意味する」という、間接的な伝達行為を表す動詞です。His silence seemed to imply his agreement. (彼の沈黙は、同意を暗に示しているように思われた) のように使います。① declare は「～を宣言する」、② explain は「～を説明する」、③ prove は「～を証明する」という意味で、いずれも直接的・明示的な行為を指すため、文脈に合いません。

◆補足：imply とセットで覚えておきたいのが infer (～を推測する) という動詞です。話し手 (speaker) が何かを imply (ほのめかし)、聞き手 (listener) がその意図を infer (推測する) という関係にあります。この二つの単語は、コミュニケーションの裏表の関係を表す重要なペアです。また、名詞形は implication (含意、暗示) で、こちらも重要です。

10.

解答 ③

【解説】

正解は③の sit back です。この句動詞は、椅子の背にもたれかかって「ゆったりと座る、くつろぐ」という意味を表します。また、比喩的に「何もしないで傍観する、のんびり構える」という意味でも使われます。Just sit back, relax, and enjoy the movie. (どうぞゆったり座って、リラックスして映画をお楽しみください) のように使います。① lie down は「横になる」、② stand up は「立ち上がる」、④ sit up は「きちんと座る、姿勢を正す」という意味です。

◆補足：sit back の back は「後ろへ」という意味で、体の重心を後ろに預けてリラックスする様子を表しています。対照的に、sit up の up は「上へ、まっすぐに」という意味で、背筋を伸ばしてきちんと座る、あるいは寝ていた状態から上半身を起こすといった、緊張感のある動作を表します。この back と up の対照的なイメージを掴むと、意味を混同しにくくなります。

11.

解答 ②

【解説】

正解は②「指示」です。instruction は、何かを正しく行うための、詳細な情報や命令、すなわち「指示、説明」を意味します。You must follow the instructions carefully when you assemble the furniture. (その家具を組み立てるときは、注意深く指示に従わなければならない) のように使います。①「意見」は opinion、③「提案」は suggestion、④「質問」は question です。

◆補足：instruction は、通常、instructions と複数形で使われ、製品の「取扱説明書」や、料理の「作り方の手順」などを指すことが多いです。動詞形は instruct (～に指示する) で、teacher や doctor よりもフォーマルな響きを持つ instructor は「指導員」を意味します。

12.

解答 ②

【解説】

正解は②「空き、欠員」です。vacancy は、ホテルなどの「空室」、劇場の「空席」、あるいは会社などの「欠員、空いている職」を指す名詞です。The hotel had no vacancies, so we had to find another place to stay. (そのホテルは満室だったので、私たちは別の滞在先を探さなければならなかった) のように使います。①「予約」は reservation、③「推薦」は recommendation、④「満室」は full occupancy や no vacancy で表されます。

◆補足：vacancy は、「空っぽの」を意味する形容詞 vacant から派生した名詞です。ホテルの前に "No Vacancy" (満室) という看板が出ているのを見たことがあるかもしれません。この No Vacancy という表示は、vacancy が「空室」を意味することを知っていればすぐに理解できます。仕事の文脈では、job vacancy で「求人、仕事の空き」という意味になります。

13.

解答 ④

【解説】

正解は④の hand out ~ です。この句動詞は、グループの各メンバーに、プリントやサンプルなどを「配る、配布する」という意味で使われます。The teacher handed out the exam papers to the students.

(先生は生徒たちに試験問題を配布した) のように用います。① give away ~ は「～を無料で与える」、② pass around ~ は「～を回覧する」、③ hand in ~ は「～を提出する」という意味で、逆の動作を表します。

◆補足：hand out ~ の名詞形は handout (ハンドアウト) で、「講義資料、配布プリント」を意味します。これも非常に重要な単語です。動詞の hand out は、distribute という、よりフォーマルな動詞とほぼ同じ意味で使うことができます。

14.

解答 ②

【解説】

正解は②「(長い) 旅」です。journey は、ある場所から別の場所への、特に長距離にわたる「旅」を指します。また、比喩的に人生やキャリアなどの「道のり」を表すこともあります。They went on a long journey across the desert. (彼らは砂漠を横断する長い旅に出た) のように使います。①「散歩」は walk、③「通勤」は commute、④「短い旅行」は trip です。

◆補足：journey, trip, travel は、いずれも「旅」に関連する単語ですが、ニュアンスが異なります。journey は、目的地に着くまでの過程や、その長さ、困難さに焦点が置かれることが多いです。trip は、行って帰ってくる一回の「旅行」を指す一般的な単語です。travel は、数えられない名詞で、「旅行という行為そのもの」を指す抽象的な言葉です。

15.

解答 ③

【解説】

正解は③「収入」です。income は、仕事や投資、事業などから定期的に得られるお金、つまり「収入、所得」を意味します。He has a stable income from his full-time job. (彼には正社員の仕事による安定した収入がある) のように使います。①「支出」は expense や expenditure、②「利益」は profit、④「資産」は asset や property が対応する単語で、いずれもお金に関する重要な経済用語ですが意味が異なります。

◆補足：income と似た言葉に salary と wage があります。salary は通常、月単位や年単位で支払われる固定給（月給、年俸）を指すのに対し、wage は時間や週単位で支払われる賃金（時給、週給）を指すのが一般的です。income は、salary や wage のほか、利子や配当金なども含んだ、より広い意味での「収入」全般を表す言葉です。

16.

解答 ②

【解説】

正解は②「現代的な」です。modern は、現在の、あるいは比較的新しい時代に関連したスタイル、考え方、技術などを指す形容詞です。This building is a perfect example of modern architecture. (この建物は、現代建築の完璧な一例です) のように使います。①「古代の」は ancient、③「伝統的な」は traditional が対応し、いずれも modern の対義語にあたります。④「未来の」は future です。

◆補足：modern と似た言葉に contemporary がありますが、contemporary art（現代アート）のように、今まさに進行している時代のアートや文化を指すことが多いのに対し、modern art（近代美術）は 20 世紀初頭など、少し前の特定の時代様式を指す場合があります。ただし、一般的な文脈では、

modern は「近代的で新しい」という意味で広く使われます。名詞形は modernization（近代化）です。

17.

解答 ③

【解説】

正解は③「意思疎通」です。communication は、話す、書く、身振り手振りなど、様々な手段を用いて情報や感情、考えを伝え合う行為全般、すなわち「意思疎通、コミュニケーション」を指します。Good communication is essential for a successful team.（良いチームのためには、良好な意思疎通が不可欠だ）のように使います。①、②、④はいずれも communication の具体的な一形態ですが、その総称ではありません。

◆補足：communication は、動詞 communicate（意思を伝え合う）の名詞形です。また、communications と複数形になると、電話やインターネット、放送といった「通信手段」を指すことが多いです。形容詞形は communicative（話好きな、伝達の）です。グローバル化が進む現代社会において、communication skills（コミュニケーション能力）は非常に重要なスキルとされています。

18.

解答 ①

【解説】

正解は①「非営利団体」です。NPO は Non-Profit Organization の略語で、利益を上げることが目的とせず、社会的な課題の解決や文化活動などのために活動する「非営利団体」を指します。多くの NPO が、環境保護や人道支援といった分野で活動しています。②「政府機関」は Government Organization、③「民間企業」は Private Company、④「国際連合」は the United Nations (UN) です。

◆補足：NPO としばしば似た文脈で使われる言葉に NGO（Non-Governmental Organization、非政府組織）があります。NPO が「非営利」である点に焦点を当てているのに対し、NGO は「非政府」である点、つまり政府から独立して国際的な活動を行う組織であることを強調しています。実際には、多くの団体が NPO であり、かつ NGO であるという性質を持っています。

19.

解答 ④

【解説】

正解は④「給料」です。salary は、従業員が仕事の対価として、通常は月単位または年単位で受け取る固定給、すなわち「給料、月給、年俸」を指します。The company offers a competitive salary and

good benefits. (その会社は、他社に負けない給料と良い福利厚生を提供している) のように使います。①「手数料」は fee や commission、②「家賃」は rent、③「賞与」は bonus が対応します。

◆補足：salary と似た言葉に wage がありますが、salary が主に知的労働や事務職の月給・年俸を指すのに対し、wage は肉体労働などに対して支払われる時間給や週給を指すのが一般的です。これらを合わせた個人の総収入は income と呼びます。この三つの単語のニュアンスの違いは、ビジネスや経済の文脈で重要になります。

20.

解答 ④

【解説】

正解は④の globe です。globe は、球体としての「地球」、またはその模型である「地球儀」を指します。He has a large globe in his study. (彼は書斎に大きな地球儀を置いている) のように使います。① earth は我々の住む惑星としての「地球」、② world は人間社会や文化を含む「世界」、③ universe は「宇宙」を意味します。

◆補足：globe, earth, world の使い分けは重要です。the Earth は、科学的な文脈で惑星そのものを指す場合に使われます。the world は、国々や人々、文化といった人間社会の側面を強調します。globe は、その丸い形に焦点を当てた言葉で、a globe (地球儀) のように使ったり、around the globe (世界中で) のように比喩的に使ったりします。形容詞形は global (地球規模の) です。

21.

解答 ①

【解説】

正解は①の praise です。praise は、人やその行動、業績などを高く評価し、「～を賞賛する、褒める」という意味の動詞です。The teacher praised the student for her hard work. (先生はその生徒の努力を褒めた) のように使います。② scold は「～を叱る」という対義語、③ envy は「～を羨む」、④ ignore は「～を無視する」という意味です。

◆補足：praise は、動詞だけでなく「賞賛」という意味の名詞としても使われます。類義語に compliment がありますが、compliment が服装や髪型など、より日常的な事柄に対する「お世辞、褒め言葉」を指すことが多いのに対し、praise は、努力や成果、人格といった、より本質的な事柄に対する、より深い「賞賛」のニュアンスを持つことがあります。

22.

解答 ①

【解説】

正解は①の **substitute** です。**substitute** は、本来使われるべき人や物の代わりに用いられる「代用品、代理人」を指す名詞です。**Honey can be used as a substitute for sugar in this recipe.**（このレシピでは、砂糖の代用品として蜂蜜が使えます）のように使います。② **addition** は「追加物」、③ **sample** は「見本」、④ **original** は「オリジナル、本物」という意味で、**original** は **substitute** の対義語にあたります。

◆**補足**：**substitute** は名詞だけでなく、「～を代わりとして用いる」という動詞としても使われます。その場合、**substitute A for B** で「B の代わりに A を使う」という構文が重要です。**You can substitute margarine for butter.**（バターの代わりにマーガリンを使ってもよい）。語源はラテン語の **sub-**（下に）+ **statuere**（立てる）で、「下に（代わりに）立てるもの」というイメージです。

23.

解答 ③

【解説】

正解は③の **miss** です。**miss** は、人や場所から離れているときに、その存在がないことを「寂しく思う、恋しく思う」という感情を表します。**I really missed my family when I was studying abroad.**（留学中は、家族がいなくて本当に寂しかった）のように使います。① **forget** は「～を忘れる」、② **lose** は「～を失う」、④ **hate** は「～を憎む」という意味で、いずれも文脈に合いません。

◆**補足**：**miss** は多義語で、寂しく思う以外にも重要な意味が二つあります。一つは「～に乗り遅れる、～を逃す」という意味で、**miss the train**（電車に乗り遅れる）や **miss a chance**（機会を逃す）のように使います。もう一つは「(的など) に当たらない、～を取り損なう」という意味です。**He missed the target.**（彼は的を外した）。これらの意味も英検 2 級では必須です。

24.

解答 ①

【解説】

正解は①「布」です。**cloth** は、綿、絹、羊毛などを織って作られた「布、生地」を指す物質名詞です。**This shirt is made of a very soft cloth.**（このシャツはとても柔らかい生地で作られている）のように使います。②「糸」は **thread**、③「模様」は **pattern**、④「衣服」は **clothes** や **clothing** が対応します。**cloth** は衣服を作るための材料である、と覚えておきましょう。

◆**補足**：**cloth** は物質名詞として使われる場合は数えられません、**a cloth** のように冠詞が付くと「(テーブルを拭くための) ふきん、ぞうきん」という意味の数えられる名詞になります。**a damp cloth**（濡れふきん）のように使います。この単語の複数形 **cloths** /klɒːðz/ は、発音が **clothes** /klaʊðz/ と非常に似ているため、リスニングの際には文脈で判断する必要があります。

25.

解答 ②

【解説】

正解は②「手を振る」です。wave は、挨拶や合図として、空中や左右に「(手や腕を) 振る」という動作を表す動詞です。She waved goodbye to us from the train window. (彼女は電車の窓から、私たちにさよならと手を振った) のように使います。①「お辞儀する」は bow、③「微笑む」は smile、④「うなずく」は nod が対応します。これらは全て非言語的なコミュニケーションですが、動作が異なります。

◆補足：wave には「手を振る」という動詞の意味の他に、名詞として「波」という意味があることはよく知られています。海の波 (waves of the sea) の他に、音波 (sound waves) や電波 (radio waves) など、物理学の文脈でも使われます。また、a crime wave (犯罪の波) のように、好ましくないことの急な増加を表す比喩的な使い方もあります。

26.

解答 ②

【解説】

正解は②「以前は～したものだ」です。used to do は、「現在はそうではないが、過去には習慣的に行っていたこと」や「過去の状態」を表す助動詞的な表現です。I used to play the piano when I was a child. (子供の頃、私はよくピアノを弾いたものだ) のように使います。これは、今はもうピアノを弾いていないことを含意します。①と③は、used to do と混同しやすい重要表現ですが、意味が全く異なります。

◆補足：used to do の否定形は didn't use to do、疑問形は Did you use to do? となるのが一般的です。この表現と必ず区別しなければならないのが、be used to ~ing (～することに慣れている) です。例えば、I am used to getting up early. (私は早起きに慣れている) のように、現在の習慣を表します。主語が物の場合の be used to do (～するために使われる) との違いも併せて、三つの「used to」を正確に使い分けることが重要です。

27.

解答 ③

【解説】

正解は③「区画、部分」です。section は、全体を構成する部分の一つ、あるいは特定の目的のために分けられた「区域、部門、欄」などを指します。This newspaper has a large sports section. (この新聞には、大きなスポーツ欄がある) のように使います。①「中心」は center、②「境界」は border、④「全体」は whole で、whole は section の対義語にあたります。

◆補足：section は、スーパーマーケットの売り場 (the vegetable section)、報告書の章 (the final section)、会社の部署 (the sales section) など、様々な文脈で「区画」や「部門」を表すのに使われる汎用性の高い単語です。語源はラテン語の secare (切る) で、「切り分けられたもの」というイメージが元になっています。

28.

解答 ③

【解説】

正解は③の **note** です。**note** は、何かを忘れないように書き留めた「メモ、覚え書き」や、非公式な「短い手紙」を指します。He left a note on the table saying he would be back soon. (彼はテーブルの上に、すぐ戻るという内容のメモを残した) のように使います。① **report** は「報告書」、② **message** は「伝言」、④ **letter** はより長くて公式な「手紙」を指すことが多いです。

◆**補足**：**note** にはこの他に、音楽の「音符」や、銀行の「紙幣」(**banknote**) という意味もあります。また、動詞としては「～に気づく、注目する」という意味で使われます。Please note that the schedule has been changed. (スケジュールが変更された点にご注意ください)。このように多様な意味を持つ基本単語は、文脈に応じた意味をしっかりと理解することが重要です。

29.

解答 ④

【解説】

正解は④の **last** です。**last** は、形容詞として「最後の」という意味で最もよく知られていますが、動詞としては、ある状態や活動が一定の時間「続く、継続する」という意味で使われます。The concert lasted for more than three hours. (そのコンサートは3時間以上続いた) のように用います。① **pass** は「(時が) 過ぎる」、② **begin** は「始まる」、③ **finish** は「終わる」という意味で、**last** とは視点が異なります。

◆**補足**：動詞としての **last** は、「(物が) 長持ちする」という意味でも使われます。These shoes are made of high-quality leather, so they will last a long time. (この靴は質の良い革でできているので、長持ちするだろう)。この動詞は目的語を取らない自動詞です。形容詞の「最後の」とは全く働きが異なるため、動詞としての用法をしっかりと覚えておくことが重要です。

30.

解答 ②

【解説】

正解は②「～を見分ける」です。**tell** は「～を話す、伝える」という意味で最もよく知られていますが、「(違いなどを) 識別する、見分ける、わかる」という意味でも非常に重要です。Can you tell the difference between these two pictures? (これら二つの絵の違いが分かりますか?) のように使います。①、③、④はそれぞれ異なる意味の動詞です。

◆**補足**：**tell** の「見分ける」という意味は、特に **can** や **can't**、**hard to**、**difficult to** などの、可能・不可能や難易度を表す語句と共に使われることが多いです。The twins look so much alike that I can't

tell them apart. (その双子はとてもよく似ているので、私には見分けがつかない)。tell A from B (AとBを見分ける) という形も頻出です。

31.

解答 ②

【解説】

正解は②「入場」です。entry は、ある場所へ「入ること、入場」という行為や、「入場する権利」を指す名詞です。Entry to the museum is free for students. (その博物館への入場は、学生は無料です) のように使います。①「規則」は rule、③「出口」は exit で entry の対義語、④「招待」は invitation が対応します。

◆補足：entry は動詞 enter (～に入る) の名詞形です。競技会やコンテストへの「参加、エントリー」という意味でもよく使われます。The deadline for entry is this Friday. (参加の締め切りは今週の金曜日です)。また、辞書の見出し語や、日記の一日分の記述なども entry と呼ばれます。

32.

解答 ④

【解説】

正解は④「～は疑いようがない」です。this is no doubt that...は、「～ということは全く疑う余地がない、間違いなく～だ」と、事実に対する強い確信を表す表現です。There is no doubt that she is the best candidate for the position. (彼女がその職に最もふさわしい候補者であることは疑いようがない) のように使います。①「～の可能性はある」は There is a possibility that...、②「～なのは残念だ」は It is a shame that...、③「～かどうかは重要ではない」は It doesn't matter whether...などで表現されます。

◆補足：doubt は「疑い」という意味の名詞です。no doubt で「疑いがない」となり、強い確信を表します。この表現は、スピーチや論文などで、自分の主張を力強く述べたいときに非常に効果的です。同じような意味で、undoubtedly (疑いなく) という副詞一語で表現することもできます。

33.

解答 ①

【解説】

正解は①の be free to do です。この表現は、「何の制約もなく、自由に～することができる」「遠慮なく～してよい」という意味で、許可や可能性を表します。You are free to use any of the computers in the library. (図書館のコンピュータはどれでも自由に使っていいですよ) のように使います。② be sure to do は「必ず～する」、③ be about to do は「まさに～するところだ」、④ be eager to do は「し

きりに～したがつている」という意味で、いずれも to 不定詞を伴う重要表現ですが意味が異なります。

◆補足：be free to do の free は「無料の」という意味ではなく、「束縛されていない、自由な」という意味の形容詞です。この表現は、相手に何かを許可したり、行動を促したりする際に使われる、丁寧で肯定的な言い方です。Feel free to ask questions at any time.のように、feel free to do...という命令文の形も非常によく使われます。

34.

解答 ③

【解説】

正解は③「(大学の) 構内」です。campus は、大学やカレッジの建物が立っている敷地全体、すなわち「構内、キャンパス」を指します。学生寮、図書館、運動場、教室棟など、その敷地内にある施設すべてを含みます。Many students live in dormitories on campus. (多くの学生がキャンパス内の寮に住んでいる) のように使います。①、②、④はいずれも campus に含まれる個別の施設名であり、全体を指す言葉ではありません。

◆補足：campus の語源は、ラテン語で「野原、平地」を意味する言葉です。アメリカの大学が、広大な敷地(野原)に校舎を建てて作られたことから、大学の敷地全体を campus と呼ぶようになりました。近年では、大企業の広大な敷地を指して company campus のように使われることもあります。

35.

解答 ③

【解説】

正解は③の count on ~です。この句動詞は、人や物を「当てにする、頼りにする」という意味で、その人や物が信頼できるという確信を持っていることを示します。You can always count on him in a difficult situation. (困難な状況では、いつでも彼を頼りにしていいですよ) のように使います。① get rid of ~は「～を取り除く」、② look down on ~は「～を見下す」、④ run out of ~は「～を使い果たす」という意味です。

◆補足：count on ~の count は「数える」という意味ですが、この表現では「(信頼できるものとして) 数に入れる」というニュアンスから「頼りにする」という意味に発展しています。同義語の rely on ~や depend on ~と比べて、count on ~はより口語的で、相手への強い信頼感を込めて使われることが多いです。upon は on よりもフォーマルな響きを持ちますが、意味は同じです。

36.

解答 ④

【解説】

正解は④の **as well** です。**as well** は、**too** や **also** と同様に「～もまた、その上」という意味を付け加える副詞句です。通常、文の最後に置かれます。**If you are going to the party, I'll come as well.**（もし君がパーティーに行くなら、僕も行くよ）のように使います。① **as if** は「まるで～かのように」、② **as for** は「～に関しては」、③ **as usual** は「いつものように」という意味で、いずれも文脈に合いません。

◆**補足**：**as well** は **too** とほぼ同じ意味で使えますが、**too** よりも少しフォーマルな響きがあります。**also** も同様の意味ですが、文中に置かれることが多い (**I'll also come.**) のに対し、**as well** は文末に置かれるのが原則です。また、**as well as** ~の形になると、「～だけではなく…も」という意味の接続詞的な働きをします。**He can speak French as well as English.**（彼は英語だけでなくフランス語も話せる）。

37.

解答 ③

【解説】

正解は③「評判」です。**reputation** は、ある人や物に対して、世間の人々が長期間にわたって抱いている評価、つまり「評判、名声」を指します。**This restaurant has a reputation for its excellent service.**（このレストランは、その素晴らしいサービスで評判だ）のように使います。①「印象」は **impression**、②「噂」は **rumor**、④「性格」は **character** や **personality** が対応します。

◆**補足**：**reputation** は、良い評判 (**a good reputation**) にも悪い評判 (**a bad reputation**) にも使えます。**build a reputation**（評判を築く）、**earn a reputation**（評判を得る）、**damage a reputation**（評判を傷つける）といった動詞と共によく使われます。似た単語に **fame**（名声）がありますが、**fame** が単に「有名であること」を指すのに対し、**reputation** は「どのように評価されているか」という評価の内容に焦点が当てられます。

38.

解答 ①

【解説】

正解は①「基準、水準」です。**standard** は、品質や性能などを評価するための「基準、水準、規格」を意味する名詞です。**The quality of this product does not meet our standards.**（この製品の品質は、我々の基準を満たしていない）のように使います。②「目標」は **goal** や **target**、③「平均」は **average**、④「規則」は **rule** や **regulation** が対応します。

◆**補足**：**standard** は、形容詞として「標準的な、普通の」という意味でも使われます。**a standard room in a hotel**（ホテルのスタンダードルーム）などがその例です。また、**living standards**（生活水準）や **safety standards**（安全基準）のように、他の名詞と結びついて複合語を作ることも非常に多いです。

39.

解答 ③

【解説】

正解は③の **along with** ~ です。この表現は、**together with** ~ と同様に、「～と一緒に、～に加えて」という意味を表します。**A new library was built, along with a new sports center.**（新しいスポーツセンターと一緒に、新しい図書館が建てられた）のように使います。① **in spite of** ~ は「～にもかかわらず」、② **instead of** ~ は「～の代わりに」、④ **because of** ~ は「～が原因で」という意味です。

◆補足：**along with** ~ と **together with** ~ は非常に意味が似ていますが、**along with** ~ は、主となるものに付随して、何か別のものが「一緒に」あるというニュアンスで使われることがあります。例えば、**I will send you the documents, along with a cover letter.**（カバーレターと一緒に書類をお送りします）のような文では、書類が主で、カバーレターが付随物であることを示唆しています。

40.

解答 ④

【解説】

正解は④「～に耐える」です。**bear** は、動詞として「（苦痛や困難、不快な状況）を我慢する、～に耐える」という意味で使われます。これは、**stand** や **endure** の類義語です。**She couldn't bear the pain any longer.**（彼女はもはやその痛みに耐えることができなかった）のように、特に **can't bear** の形で否定文で使われることが多いです。①「～を求める」は **seek**、②「～を壊す」は **break**、③「～を避ける」は **avoid** です。

◆補足：**bear** には複数の意味があります。最も基本的な意味は「～を運ぶ、持つ」ですが、他にも「（子）を産む」という意味もあります。また、名詞としては「熊」という意味があることはよく知られていますね。このように多くの意味を持つ単語は、文脈から意味を判断する力が問われます。「耐える」という意味は比喩的な使い方ですが、非常によく使われるため、必ず覚えておく必要があります。

41.

解答 ①

【解説】

正解は①の **take after** ~ です。この句動詞は、子供が親や祖父母など、年上の血縁者の外見や性格に「似ている」ことを意味します。**She takes after her mother in her love of music.**（彼女が音楽好きなのは、母親譲りだ）のように、性格や才能が似ている場合にも使います。② **ask after** ~ は「～の安否を尋ねる」、③ **look after** ~ は「～の世話をする」、④ **run after** ~ は「～を追いかける」という意味です。

◆補足：**take after** ~ の類義語に **resemble** がありますが、**resemble** の方がよりフォーマルな響きを持ちます。**take after** ~ は日常会話で頻繁に使われます。誰に似ているかを具体的に示すため、目的語には **father, mother, grandmother** といった家族を表す名詞が来ることがほとんどです。

42.

解答 ②

【解説】

正解は②の **now that**…です。この接続詞は、「(以前は違ったが) 今はもう～という状況なので」と、変化した状況を理由として述べる際に使われます。Now that you are a high school student, you have more responsibilities. (君はもう高校生なのだから、より多くの責任がある) のように用います。① in case…は「～するといけないので、～の場合に備えて」、③ as long as…は「～しさえすれば」という条件、④ even if…は「たとえ～でも」という譲歩を表します。

◆補足：now that…は、because と意味が似ていますが、特に「状況が新しくなったこと」を強調するニュアンスがあります。文頭にも文中にも置くことができます。主節の動詞の時制は、現在形、未来形、現在完了形などが来ることが多く、過去の状況と対比しながら現在の状況を説明するのに便利な表現です。

43.

解答 ④

【解説】

正解は④「助言」です。advice は、誰かが問題を抱えているときなどに、どうすべきかについて与える意見や助言、アドバイスを指します。He gave me some good advice on how to study for the test. (彼は私に、そのテストのためにどう勉強すべきかについて、いくつか良い助言をくれた) のように使います。①「情報」は information、②「提案」は suggestion、③「忠告」は warning が対応します。

◆補足：advice は数えられない名詞（不可算名詞）であるという点が非常に重要です。そのため、an advice や advices という形では使いません。助言を数える場合は、a piece of advice (一つの助言) や some advice (いくつかのアドバイス) のように表現します。動詞は advise /əd'vaɪz/ (～に助言する) で、名詞 advice /əd'vaɪs/ とは発音が異なる (s と z の音の違い) ので注意が必要です。

44.

解答 ②

【解説】

正解は②「心から」です。sincerely は、偽りや飾りがなく、本心から何かを思ったり、言ったりする様子を表す副詞です。I sincerely hope you will get well soon. (あなたが早く良くなることを心から願っています) のように、希望や謝罪、感謝の気持ちを強調する際に使われます。①「頻繁に」は frequently、③「徐々に」は gradually、④「偶然に」は by chance が対応します。

◆補足：sincerely は、英語の手紙や E メール結びの言葉として非常によく使われます。Sincerely, や Sincerely yours, の後に自分の名前を書くのが、フォーマルな場面でもインフォーマルな場面でも使える一般的な形式です。形容詞形は sincere（誠実な、心からの）です。a sincere apology（心からの謝罪）のように使われます。

45.

解答 ③

【解説】

正解は③の deal です。deal は、ビジネス上の合意や取り決め、すなわち「取引」を意味する名詞です。They finally made a deal after weeks of negotiation.（数週間にわたる交渉の末、彼らはついに取引をまとめた）のように使います。① promise は「約束」、② meeting は「会議」、④ contract は「契約（書）」を意味します。contract は deal よりも公式で法的な拘束力を持つ文書を指すことが多いです。

◆補足：deal は、動詞としても「取引する」という意味がありますが、deal with ~（～を扱う、対処する）という句動詞の形がより重要です。I have to deal with a lot of customer complaints.（私は多くの顧客からの苦情に対処しなければならない）。また、It's a deal!（それで決まりだ！）や a good deal（お買い得品）のように、口語的な表現でも頻繁に使われます。

46.

解答 ③

【解説】

正解は③「不平を言う」です。complain は、何かに対して不満や不快感を表明すること、すなわち「不平を言う、苦情を言う」という意味の動詞です。He is always complaining about the weather.（彼はいつも天気について不平を言っている）のように使います。①「感謝する」は thank、②「同意する」は agree、④「謝罪する」は apologize が対応します。

◆補足：complain は、complain to (人) about (事柄) の形で「(人)に(事柄)について不平を言う」という構文で使われることが多いです。名詞形は complaint（不平、苦情）で、make a complaint（苦情を言う）という形で使われます。日本語の「クレーム」は英語の complaint から来ていますが、英語の claim には「苦情」という意味はなく、「主張する」という意味なので注意が必要です。

47.

解答 ④

【解説】

正解は④「専門的な」です。professional は、特定の職業に関連した、あるいは高度な訓練や教育を必要とする、という意味の形容詞です。She gave me some professional advice about my career.（彼女

は私の経歴について、いくつか専門的な助言をくれた) のように使います。①「個人的な」は personal、②「アマチュアの」は amateur で professional の対義語、③「一般的な」は general です。

◆補足：professional は、名詞として「専門家、プロ」という意味でも使われます。He is a true professional in his field. (彼はその分野の真のプロだ)。形容詞の対義語である amateur (アマチュアの) も、名詞として「素人、アマチュア」という意味で使われます。この二つの単語は、スポーツや芸術の文脈で対比して使われることが非常に多いです。

48.

解答 ④

【解説】

正解は④の typically です。typically は、ある特定のグループや種類の持つ典型的な特徴を表し、「一般的に、代表的に、いかにも～らしく」という意味で使われます。It's typically hot and humid here in summer. (この夏は、一般的に暑くて湿度が高い) のように、ある状況で普通に見られる様子を描写します。① actually は「実際には」、② especially は「特に」、③ finally は「ついに、最終的に」という意味で、文脈に合いません。

◆補足：typically は、「典型的な」という意味の形容詞 typical の副詞形です。typical of ~で「～に典型的だ、～らしい」という形でよく使われます。This kind of behavior is typical of him. (こういう行動はいかにも彼らしい)。typically は、usually や generally と意味が似ていますが、「そのグループの典型として」というニュアンスをより明確にしたい場合に適した言葉です。

49.

解答 ③

【解説】

正解は③「給料」です。pay は、動詞として「支払う」という意味が最も有名ですが、名詞としては、仕事に対して支払われる「給料、賃金」を意味します。He is asking his boss for a pay raise. (彼は上司に昇給を求めている) のように使います。①「料金」は fee や charge、②「費用」は cost、④「支払い」は payment が対応する単語です。

◆補足：「給料」を意味する単語には、pay の他に salary (月給・年俸) や wage (時給・週給) があります。pay はこれらを総称する、最も一般的な言葉です。また、動詞としての pay も pay attention (注意を払う) や pay a visit (訪問する) など、お金以外のものを「支払う・払う」という比喩的な使い方でも多くの熟語を作ります。

50.

解答 ③

【解説】

正解は③の **hand in** ~です。この句動詞は、宿題、レポート、辞表などを、先生や上司といった権威のある人に手で渡して「～を提出する」という意味で使われます。All students must hand in their essays by Friday. (全ての学生は、金曜日までにエッセイを提出しなければならない) のように用います。① **hand over** ~は「～を引き渡す」、② **hand down** ~は「(伝統など) を伝える」、④ **hand out** ~は「～を配布する」という意味です。

◆**補足**：hand in ~と似た表現に turn in ~がありますが、意味はほぼ同じで、どちらも「提出する」という意味で使えます。よりフォーマルな文脈では submit という動詞が好まれます。対照的に、hand out ~は先生が生徒にプリントを「配る」ような、上から下への配布を表すので、混同しないようにしましょう。
